

第23号

発行 2023年4月4日

編集代表 西本 孝

# NOI 岡山通信

日本自然保護協会  
岡山県自然観察指導員連  
絡会 (NOI: Nature  
Observation Instructor)

## ごあいさつ

代表世話役 西本 孝

新型コロナウイルスは、3年を経て、行動制限もなくなり、従来の社会生活が送れるようになってきました。NOI岡山も通常通りの活動を予定しています。今後の活動予定を考慮し、可能な限り参加していただき、皆さんと一緒に自然の奥深さを味わっていきたいと思います。

活動の報告、今後の活動についてもお知らせします。それぞれ興味ある活動に参加してください。会員がそれぞれの地元で開催する自然観察会も増えています。今後も支援したいと考えているので、会員の皆さんが独自の観察会の企画運営、自然保護活動を実施してください。

## 活動報告

これまでに実施した活動—2023年3月に実施したもの

- 協力行事) 深山公園自然観察会  
開催日: 3月12日(日) 場所: 玉野市深山公園  
内容については、藤原淳子さんが報告
- 協力行事) 早春の植物の自然観察会  
開催日: 3月18日(土) 場所: 新見市豊永  
内容については、大森隆志さんが報告
- 協力行事) 春のいきものをさがしにいこう  
開催日: 3月19日(日) 場所: 岡山市こどもの森  
内容については、山根一郎さんが報告

## 今後の活動予定

### ○主催行事

第24回自然観察会—早秋の毛無山の植物 (日程が変更されました)

西本 孝

- 日時: 4月30日(日) 10時~14時
- 場所: 毛無山(新庄村) 小雨決行
- 特徴: 早春のブナ林の林床で開花する春植物を観察し、山菜料理の昼食弁当を楽しむ。
- 弁当: 申込みが必要(1000円)
- 申込み: 4月20日締切
- 西本 孝: [taknishi@js4.so-net.ne.jp](mailto:taknishi@js4.so-net.ne.jp)

年次総会と第25回自然観察会

NOI岡山と新庄村自然保護連絡協議会の共催

- 日時: 6月11日(日) 10~15時
- 場所: 新庄村公民館と田浪採草地
- 内容: 午前: 総会、午後: 田浪採草地で、希少な昆虫の生息地の現在の状況を視察。
- 連絡先: 橋本智明 [michikusa@mist.ocn.ne.jp](mailto:michikusa@mist.ocn.ne.jp)

中国地方5県交流会 (担当は鳥取県) と第26回自然観察会のお知らせ

- 日時: 9月16日(土) 13時~17日(日) 13時
- 場所: 休暇村奥大山、鏡ヶ成
- 内容: 1日目は鏡ヶ成湿原の視察、自然再生の講演、2日目は擬宝珠山登山。
- 宿泊: 鏡ヶ成国民休暇村。
- 申込: 西本まで (締切 7月末頃)
- 詳細: 第一報が届きました (別紙参照)。

年会費

西本 孝

会費は、年度払いです。総会で支払うか、郵便局等で振り込んでください (手数料は各自)。

- ゆうちょ銀行 記号 15440 番号 38433761 NOI岡山
- 他金融機関からの振り込み 店名五四八 店番 548 普通預金 3843376

2023年になってからの深山公園でも、低温、少雨の日が続いていました。公園内にある5個のため池は繋がっていて、最下流にある伊達池の埋め立て工事に支障がないように、深山用水に水を送る中池の水位は下げられていたために、深山用水が干上がった時もありましたが、3月9日には以前の水位にまで戻っていました。

3月12日（日）、午前10時に集合して、一般参加者2名を含む8名で自然観察会を開催しました。最初に訪れた赤松池西側の深山用水には、所々に水が溜まっていて（写真1）、ニホンアカガエル、ツチガエル、カワムツ等が観察できました（写真2）。例年よりもニ



写真1. 深山用水は乾き気味であったが、所々に水が溜まり、落ち葉の下で、卵塊やニホンアカガエルの雄が見つかった。



写真2. 用水路に入り、網ですくって生きものを探す。

ホンアカガエルは、産卵が遅く、卵塊数も少ない状態でした。近くの斜面に植えられていたオオバヤシャブシは、ちょうど花が咲くころを迎えていました（写真3）。雄花から花粉が風で飛び出して、花粉症のアレルギー源となり、口腔アレルギー症候群を引き起こすこともあるそうです。



写真3. オオバヤシャブシの雄花が黄色くなり、花粉を出し始めている。



写真4. 用水路は干あがって、卵塊も乾きつつあった。

次いで訪れた花木園側の深山用水では、セトウチサンショウウオの卵囊は見つかりませんでした。昨年はあった用水路の水たまりには今年は水がなく、ニホンアカガエルの卵塊が、干あがった状態となっていたので、水のあるところへ移動させました（写真4）。

最後に行った紅葉谷では、セトウチサンショウウオの卵囊が見つかりましたが、卵囊は白濁した卵が混じっていて（写真5）、その割合が他の場所に比べて高くなっていたそうです。ここでは、オニヤンマのヤゴも観察できました。

後日、3月28日（火）に4名でおこなった

調査では、花木園側の深山用水で3対のセトウチサンショウウオの卵囊が見つかりました。暖かくなって雨が降るまでじっと待って、産卵したようです。紅葉谷でも新しい卵囊2対と、撮影した写真で教えていただいたヤマトンボの仲間、カワトンボの仲間、サナエトンボの仲間、ミズムシ（アセルス）等も見つかりました。

多種類の水生生物が健全に生き残るように、良好な水辺環境が維持される公園管理が必要だと感じました。



写真5. セトウチサンショウウオの卵塊には、発生が止まって白濁した卵が混じっていた。

3月18日(土)朝まで雨が降り、天候が心配されましたが、雨も上がり観察会にこぎつけました。まず、診療所の裏側でユキワリイチゲ(写真1)・アマナを観察し、さすがに日差しがないから花は開きませんでした。引き続きカタクリ・ミヤマヨメナの自生地を巡り、カタクリはすでにいくつかは蕾になり、アオイスミレ(写真2)も咲いていました。

自宅に戻ってトイレ休憩を兼ねて、クロモジ茶を振る舞い、前日に採集していたクビキリギリス(成虫越冬; 写真3)・トギレフユエダシャク(フユシャク)などを見てもらいました。ビオトープ予定場所では、カテンソウ・ヤマネコノメソウ、ニリンソウ(写真4)はもう咲き始め、アズマイチゲ(写真5)は開かず、咲き残った花が見られたセツブンソウ(写真6)は多くがすでに袋果になり、キバナアマナは花が開いたのもありました。この時期には珍しいイカリモンガ(蝶のように翅を閉じて止まる蛾; 写真7)に出会い、コナラの樹皮の間にはクヌギカメムシの卵と孵化したばかりの幼虫(写真8)がいました。それから、セリバオウレン(写真9)をみた後、チトセカズラが群生する崖では、キブシ(写真10)・ダンコウバイ(写真11)・アブラチャンの花を見ました。アブラチャンとサツマスゲ(写真12)は新しい発見でした。

ビオトープの整備、バタフライガーデンなどをつくり、年数回の観察会・むしの写真展などを実施する予定です。2年前から年数回の観察会(早春の自然観察会〔3月〕、春の自然観察会〔5月〕、ヒメボタル・ゲンジボタル観察会〔6月〕、トリノフンダマシ観察会〔7月〕、赤とんぼの観察会〔9月〕)などを実施し、主に備北民報に募集を載せていました。今回はそうした仲間が多数集まりました。



写真. 1:ユキワリイチゲ 2:アオイスミレ 3:クビキリギリス 4:ニリンソウ 5:アズマイチゲ  
6:セツブンソウ 7:イカリモンガ 8:クヌギカメムシの卵と羽化したばかりの幼虫 9:セリバオウレン  
10:キブシ 11:ダンコウバイ 12:サツマスゲ。

3月19日 「春のいきものをさがしに行こう」（こどもの森）に参加しての感想

ソメイヨシノが咲く少し前、暖かくなった日曜日の午前中、快晴の空の下で自然観察会は開催され、沢山の親子連れが集まってきて、参加者の多さに驚きました（写真1）。大人や子供が自然にふれることを楽しみに集まっていて、それぞれ参加した人が「自然にふれることが大切さだと」感じているのだと思いました。改めて自然観察会の必要性を感じました。

自然観察を始めてすぐに、桜の木があり、「サクラの芽」を題材にして、「どっちが葉の芽で、どっちが花の芽でしょうか」と質問してみました。花芽が大きく膨らんでいたのも、小学生らしい子が「内側の芽が花芽」「外側が葉の芽」とすぐ答えてくれました。

では、「次の質問、なぜ葉の芽は、外にあるのでしょうか」と呼びかけました。「サクラの木はどこから栄養をとっているのでしょうか」と聞くと「光合成」と答える子どもがいました。「光合成という言葉を知っているの」と驚きながら、続けて、さらに、「では光合成がし易い場所は」と聞くと、「外側」との答えをみんなで共有することができました。

自分で疑問をもち、考える事で「サクラの木としての工夫」をより深く感じる事ができたように思いました。その時に言葉を交わした子どもは、その後も何度も話しかけてきました。今までは観察会に参加しても、どんな材料を提供できるのか迷ったり、なかなか参加者とのコミュニケーションがとれなかったりと悩んでいましたが、今後のヒントになる経験でした。

『自然観察の目的は、どんな小さい個別のテーマであっても、究極的には「**自然のしくみ**」をよりよく知り、そのうえで「人と自然のありかた」について考えるという目標に結びつくものだという自覚をもちたい』（自然観察ハンドブック① 日本自然保護協会 平凡社）との記述を思い出しました。これから、自然観察のなかで「おや、なぜ」と疑問をもちそのことを考えてみる、調べてみる事ができる題材を考え、提供していきたいと思いました。そんな経験の交流が指導員連絡会のなかで沢山できると嬉しいです。



写真1. 集まってきたたくさんの親子連れ。



写真2. 木の表面の樹皮の隙間の生きものを観察。



写真3. 岩石の見本園にできた水たまりをのぞき込んで、小さな生きものを観察。



写真4. スタジイの木の下で、手の届くところにあったシイのどんぐりの赤ちゃんを観察。